

真田図書館サポーターだより 第8号

業務部会交流会にご参加ください！！

業務部会では、年に2回、会員同士の交流を図ることを目的に交流会を開催しています。交流会では親睦を深め、日頃から感じていることを出し合い、図書館職員と一緒に考えてまいります。堅苦しい交流ではなく、お茶やお菓子をいただきながら、楽しい時間ですが、いつも10人ちょっとの部会員の参加です。多くの方に参加いただき、懇親を深められればと思っています。来年の2月も行う予定ですので、是非、ご参加ください。

☺一緒に活動するサポーターを募集しましょう！☺

運営部会では、おはなし広場の出演・運営、サポーターだよりなどの広報、講演会やコンサートなどのイベントの企画運営、花壇づくりなどの美化活動等を、また業務部会では、配架、書架整理、本の装備修理、館内案内・見回り、リサイクル本の受入・整理、その他蔵書点検への協力等を行っています。

「図書館に携われて幸せだな。」「男手が欲しいね。」などのいろいろな感想をお聞きます。多くの方々と、図書館を通して知り合うことができることが、サポーター活動の最高の魅力です。

図書館でも有線などで、サポーター募集を広報していますが、一番いいのは、サポーターの皆さんお一人おひとりが、知り合いの方などに、「いろんな人と知り合えるよ。」「楽しいよ。」などと直接声をかけ勧誘することです。

皆さん、一緒に図書館を支える活動をしてくれる仲間を増やしましょう！！

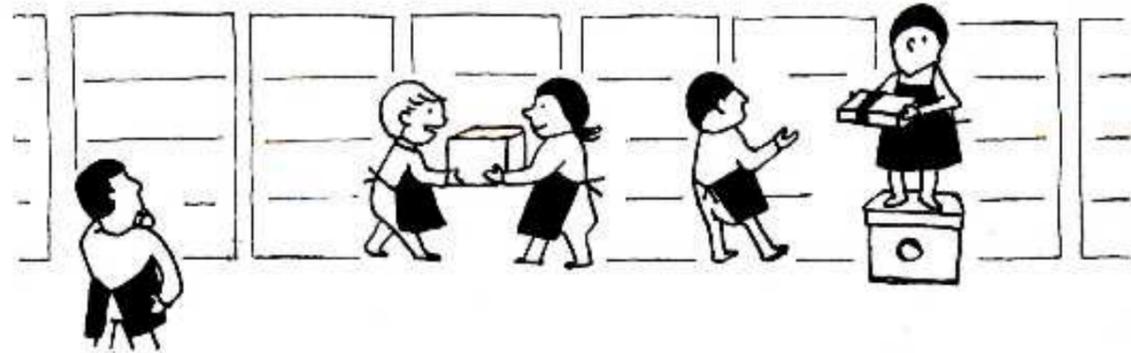


イラスト: 牧内 愛さん

・・・編集後記・・・ 今年こそは、そばを作りたいと思っていたので、「そばは土用の土を3日かぶれば良い」との年寄りの言葉に、8月8日にそばの播き付けをしました。夏の暑さで乾ききっている土地に、雨降予報を期待して約3kgの種子を播きました。播き付け後、大雨は降りませんでしたが時折しとしと降る雨により、12日の朝確認すると播き付けたとおりに7ミリ程の幼苗が生えていました。新そばを食べたいので今後の管理も頑張ります。(M.W)

生き生きとした図書館サポーターの活動！！

定期総会開催。ますますの躍進を！

4月26日(土)午後1時30分から図書館多目的ルームで、真田図書館サポーターの会定期総会を開催し、25年度の活動の報告があり、また、26年度活動内容等を決定しました。

まず、「ミミールの会」さんによる民話をもとにした紙芝居、「たまたま箱」の皆さんによるアトラクションで和んだ雰囲気が始まりました。

運営部会、業務部会が協力し合っている活動は、年を追うごとに充実してきていることが報告されました。

昨年度の活動報告では、「真田塾」として開催した6月1日の陶芸家 阿部良雄先生、7月27日の時代考証家 山田順子先生講演、10月26日の寺島隆史先生講演、翌年2月8日栄養士 市場祥子先生、第5回は郷土史研究家 堀内泰先生に多くの参加者があり、市民協働事業としての高山賢人さん・高久史子さんによる「二胡の夕べ」には、100人を超える盛況ぶりが報告されました。

また、12月7日の図書館まつりには、350人の来館者があり、「もちつき大会」、「本のリサイクル市」、「おはなし広場」が行われ、本のリサイクル市では、1,390冊がリサイクルにまわり活用されることになり、活動が定着しつつある方向が示されています。

業務部会では、会員が毎日、真田図書館に出向き、配架整理、館内案内・見回りをし、また、本の修理は火曜日と木曜日の午後にと、図書館を支えています。

このような活動の総括に立って、平成26年度の事業計画を取り組むことを決定しました。サポーターの会の活動は、年々拡充しています。会員の皆さん、今後とも、会員全員で力を合わせ、益々、真田図書館が私たちの地域の生涯学習の拠り所として育っていけるよう協力したいと思います。

異業種体験研修を通して

上田市立第五中学校 長谷部 あゆみ

長野県教職員新規採用者3年次 異業種体験研修ということで、7月30日、31日の2日間 研修をさせていただきました。

私が勤めている学校は子どもたちにとっての大切な学びの場の一つですが、図書館は子どもだけでなく、地域の方々にとっての学びの場 新しい物事に会い、考え、学びを深める大切な場所 であると感じました。たとえば、館内の入口に設置されたテーマ本のコーナー。8月は平和や戦争をテーマに職員の方が選書した本が並べられています。ふらっと立ち寄った人に、普段あまり読まない本も手



にとってほしい、いろいろな物事にふれ考えを深めてほしいという職員の方の思いを感じる一角です。目的をもって知識や情報を得るために訪れる場所としてのみでなく、足を運んだ際にたまたま目にした展示から未知の世界に触れることができる出会いの場所としても、図書館は地域の中で大きな役割を果たしていると感じました。

また、職員の方のあたたかい心遣いを感じる2日間でした。書架整理や配架は一見地味な作業に思えますが、その一つひとつに利用者の方を思う職員の方の心があります。本を見つけやすいように、手にとりやすいようにと考えて書架整理をしたり... 小さなことですが、そのおかげで利用者は気持ちよく図書館を利用することができます。また、バスを逃してしまった子どもたちの話を聞いて次のバスの時刻を調べたり、小さなイメージや言葉を頼りに一緒に本を探したり... 人と人のかかわりを大切にされている、笑顔あふれるとてもあたたかい場所であると感じました。

これまで自分にとってあまり身近な存在ではなかった公立図書館ですが、さまざまな本に出会い、新しい分野に足を踏み入れることができる素敵な場所であることを、学校に戻り子どもたちに伝えていきたいと思いました。また今後は、自分自身の知見を広め、考えを深めていくために、私も公立図書館を利用させていただきたいと思います。



2日間 貴重な体験をさせていただき、本当にありがとうございました。

菜園講座を通して

受講者 1.1



今年も3回、山宮君夫先生の家庭菜園講座に参加させていただきました。私が先生の講座に初めて参加させていただいたのは、6~7年くらい前です。ちょうどその頃、それまで義母が主にやっていた野菜作りを、私がやるようになったからです。義母に聞いたり、近所の方に教えていただいたり、来年用にメモしておいて、それを参考に野菜作りを行っていました。でも、その時季に何の種を蒔いて何をやったら良いのか、わからなくて困っていました。そんな時、山宮先生の講座を知り参加させていただきました。山宮先生のお話は、とても解りやすく、丁寧に説明をしてくださるので、

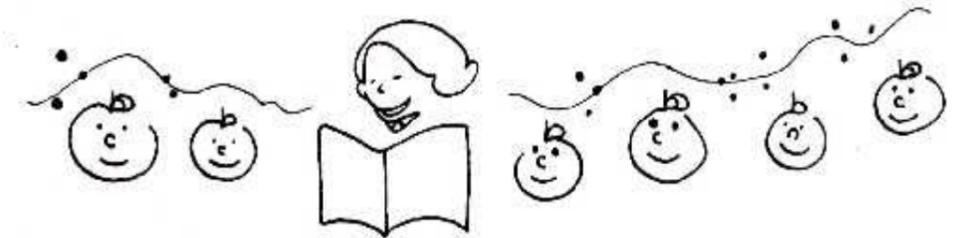
お聞きしていて、「ああ、そうなんだあ」と胸に落ちます。それに楽しくて面白いです。先生からの質問に、みんなが手を挙げて答え、また、時には、真田の方言を使って話してくださるからなのです。なので、2時間はあっという間です。また、内容が季節に合っていて、すぐ明日の作業に

図書館まつり

12月6日(土)午前中

おはなし広場、本のリサイクル市、もちつき大会等

1月から「おはなし広場」や「第4回の真田塾」、「第2回ボランティア講座」などを計画しています。



閑話休題

おはなし広場の一環として8月は図書館職員が、お子さんたちに読み聞かせをチャレンジしています。今回は、職員に感想をいただきました。

夏休みおはなし会に参加して

図書館 酒井

8月15日に開催された「夏休みおはなし会」へ初めて参加させていただきました。司書の江口さんと練習を重ね迎えた本番は、思ったより緊張せずのびのびと楽しみながら読み聞かせをすることができました。

学生時代に司書課程の一環で絵本の読み聞かせについて学んだ経験はありましたが、同年代の学生へ向けてではなく、小さなお子さんや保護者の方を前に読み聞かせをするというのは今回が初めてでしたので、実際に体験してみないとわからない現場での難しさというものをひしひしと感じました。

具体的に挙げると、いくつかある中で最も強く感じたのは選書の難しさです。おはなし会へ参加して下さるお子さんの人数や年齢に合わせてその場で速やかに絵本を変更し、お客さんが思い切り絵本の世界を楽しめるよう気を配って下さった江口さんの姿には感銘を受けました。私自身はと言えば、事前に選書し用意した絵本を練習通りに読むのが精一杯でしたので、これから多くの経験を重ねる中で精進していきたいと感じました。

お盆の期間中ということもあり普段のおはなし会より小規模ではありましたが、参加して下さった方に楽しんでいただけたようでほっとしました。同時に私自身もとても楽しんで読み聞かせをすることができ、未熟ながらも一回り成長できたように思います。良いおはなし会にできて良かったです。

真田図書館これからの行事予定

家庭菜園の楽しみ方講座 (共催: JA 信州うえだ)

9月5日(金)午後2時~午後4時30分 講師 山宮君夫先生

図書館蔵書点検(曝書)

9月9日(火)~12日(金)

10日と11日はサポーターの方も点検いただきます。ぜひ、ご参加を！！

2階の書架の本の整理、書架の清掃に図書館職員と協力して行います。

コンサート「ハワイの風吹く歌」

10月4日(土)午後6:30~8:00頃

演奏 シンガーソングライター:森繁昇氏

申込み9月20日~30日 真田図書館へ

演奏曲「故郷」「赤とんぼ」等、童謡からPOPな曲目も！



シンガーソングライター 森繁昇氏

第3回真田塾

10月25日(土)午後2:00~4:00

講師 郷土史研究家 堀内泰氏

演題「第3回 宝永の指出張と真田町の歴史」

申込み10月1日~20日 真田図書館へ

ボランティア講座

10月23日(木)午後1:30~3:30

内容「1日体験ボランティア」・・・図書館でサポーターがどのような作業をしているか実際に体験していただきます。ぜひ、声をかけて和気あいあいと参りましょう。

リサイクル本の受入

11月29日(土)、30日(日)午後(時間未定)

家庭で読み終えた本をお預かりし、図書館まつりの本のリサイクル市に出す準備です。

間に合うお話なので、明日種まきしようとか、追肥をしようとか、摘芯しようとか、即実践できてとてもありがたいです。山宮先生の講座は盛況で、受講者は80人くらいいます。講座開始15分前頃にはもう席はいっぱいです。最後の質問タイムまで、皆さん熱心に受講されています。私も先生のお話をお聞きしてから、秋作ジャガイモに挑戦したり、キャベツ、ブロッコリー、ネギ、玉ねぎの苗づくりにも挑戦しました。自分で種を蒔いて苗を作り、それを植えて、初めて収穫した時にはとても感激し、「やったぁ」と思いました。今年は初めてハックルベリー、茎ブロッコリー(スティックセニョール)に挑戦しました。収穫の秋が楽しみです。

山宮先生、図書館、サポーターの会、JAさんに感謝です。9月の講座もぜひ参加したいと思っています。

家庭菜園講座「楽しい家庭菜園教室」を受講して

受講者 松崎修一

サラリーマンの頃は、日曜百姓で主に稲作をしていたが、定年になり時間に余裕もでき、また、畑もあるので妻と一緒に一級品の野菜作りをしてみようと思っていた。たまたま中学校の同級生と飲んだ時に、講座の話題になり一緒に受講しようと言う事になった。年四回の講座であるが、いつも部屋いっぱい満席の盛況である。

講師の山宮先生は、ご高齢にも拘わらず二時間余りを立ったままで、ユーモアも交えた軽妙な語り口で、我々受講生の心を引きつける。床つくりや種まきの時期、水やり、間引きや追肥の仕方等細かく丁寧に話される。実際にあらゆる野菜作りをされ、事細かに観察されていることは先生の「家庭菜園の楽しみ方」を読めばより一層理解できる。

私と妻の野菜作りは数えてみたら二十数種類になるが、なかなか思うように生育してくれない。しかし、見栄えが悪くても、できればどの野菜も無農薬で、収穫期は自給自足できるのが目標である。

全て先生に教わったように一度で出来ないと思うので、今年はまず毎年草だらけにしているジャガ芋とネギの管理を実行してみた。

ジャガ芋の二回目の施肥と土寄せは、芽かき後の一回目から二週間後位に行くと葉があまり繁っていないので仕事が楽であった。ネギも同数回行った後もう一回増やして現在順調に育っている。お陰様で芋は草にもならず大きな物が収穫できた。

教えて頂いた野菜作りは種類が多いので一つずつ実践し、自分のものにしようと思っている。今後も体が動く間は、野菜を作り自分達で作った野菜を味わう生活が一日でも長く続けられればと考えている。

真田塾「宝永の指出帳」から見た真田町の歴史」を受講して

竹室自治会 小金敏展

竹室自治会は貴重な資料「原之郷指出帳(控)」宝永三年(1706)を所有し、村中の幟には弘化三年(1846)、竹室神社脇の道祖神には文久四年(1864)の記載があります。

この度、真田塾で堀内泰先生による標題のご講演が企画されましたので拝聴させていただきました。前回は、宝永の指出帳とは、仙石家に替わって上田に入封した松平氏が村から提出させた文書で、今日の「村勢白書」の様なものだそうです。まず、真田地域の移り変わり、江戸や倉賀野宿までの距離・本田畑・切起(新田畑)・雑税・村蔵(村毎に置かれた年貢米などの貯蔵庫)・家屋数と人口・馬数について、資料に基づいたユーモアのある判りやすい内容でした。

今回は、寺・神社・農作物と農業・農閑期を利用した余業についてお話しいただきました。江戸時代の農業は私たち子どもの頃の原型で、養蚕・蚕種の製造・生糸の輸出で財をなし、その後、りんご栽培に早めに転換されたお宅もあるが、最近は荒廃地となった田畑があり、その変化に嘆いておられました。我が家も祖父母は水田と養蚕、父母が水田とりんご栽培でしたが、私は教員で田畑を耕作せず慙愧に耐えないです。

次回も、是非受講させていただき、真田地域の中世から近世について研鑽を積み、想像の翼を広げたいと願っています。



< 図書館にできること > part5

(図書館 小暮)

あなたの身近かな図書館では、なにができるのでしょうか？

これまで、「図書館にできること」ということで取り上げてきました。

今回で第5回となりました。みなさん、「図書館」というとどんなイメージが浮かびますか？図書館では、おもに中高生が勉強するところ、新聞や雑誌を読めるところ、本を借りるところ、住宅地図をコピーしてくれるところ、読みたい本を探してくれるところ。ここまでくると、けっこう使いこなしていらっしゃるね。調べもの、学术论文の検索・・・など。使いこなすと奥が深いのです。

実は、本があるところには人が集まり、人と人がつながるところなのです。

「図書館」は人と本と人をつなげる場所。

たとえば、「マイマイガの駆除はどうすればいいの？」とある方が来館され、相談窓口でお尋ねになると、図書館司書が「害虫図鑑」や「蛾の本」をお出しして、また、JAのデータベース「ルール」をご案内し、駆除方法を検索し、印刷してお渡しします。それをそばで聞いていた方が「こんな駆除のしかたがあるよ。」「蛾の毒は怖いから、こんなふう気をつけるといいよ。」と教えてくださいました。図書館職員も来館されていた方も、おおいに感心し、「そうなのか。」と目を丸くしたものです。図鑑も資料も大切ですが、人が人を思う知識の広がりとは素晴らしいと感じました。

また、ある時、自信を失いかけた若い方が来館され、「どうしたら自信を持ち、前に進めるのだろうか？」と窓口で相談にいられました。根気強くお話をお聴きする中で、「得意なことは何ですか？」とお聞きすると「得意な分野の本」を素晴らしい笑顔で借りて帰られました。後日、とびきりの笑顔で胸を張り、一歩前進した報告に来てくださいました。図書館職員として心から「よかった」と後姿を見送りました。

まるで、人生相談のようです。おそらくそんな相談はこの図書館もきっと応じていないでしょう。この利用者の一件は、最初から人生相談だったわけではありません。調査相談の途中からお互いの信頼関係が生まれ、そのような成り行きに至ったわけです。図書館サービスの原則の中には人生相談はありません。そして、もちろん個人情報も固く守られていることを付け加えます。

こうして地域の公共図書館「わがまちの図書館」では、日々、地域の人々や遠方からおいでになった人が本や情報を求めて図書館においでになります。目的をもって来館される方、なんとなく居場所を求めて来館する方、それぞれの人、ひとりひとりにとって

いごちのいい場所でありたいものだと考えている昨今です。

